

山形県立 鶴岡病院だより

山形県立鶴岡病院 〒997-0369 鶴岡市高坂字堰下28 ☎ 0235-22-2690

小児精神科について

副院長 神田 秀人

小児精神科と言われても、馴染みのない方は多いかもしれません。しかし、現在の学校教育現場で、特別支援教育などで遭遇される子どもは、増加の一途をたどっていることをご存知の方が多いと思います。そのような子どもたちに医学的に対応するのが、小児精神科と考えて頂ければ良いと思います。代表的な障害として注意欠陥／多動性障害や、自閉症スペクトラム障害があります。今回は、注意欠陥／多動性障害(ADHD)についてお話ししましょう。



不注意、落ち着きが無く、衝動的であるという行動の程度が、同じ年齢の他の子供達に比べて際立っており、それらの行動が半年以上継続していて、それらの傾向が7歳以前から始まっている（対応がよく目立たなかった場合でも12歳までには始まっている）、知的な遅れのためにそうなっているのではない場合に、ADHDと診断されます。

現在では ADHD の子どもに、多くのリスクがあることが分かってきています。アメリカでは、およそ 25 %から 40 %が、少なくとも 1 回は留年をし（アメリカでは義務教育にも留年があります）、停学や退学させられたりして高校を卒業できないという報告があります。また、親によって虐待を受けるリスクも高く、放置されればそれらの子どもが破壊的で反社会的な行動を取る成人になってしまうといわれています。

注意欠陥／多動性障害の子どもは、本人には悪気が無いにもかかわらず、なかなか親や教師の言うことを守れません。それで、叱られたり怒られたりしているうちに段々と反抗的になってゆき、それがまた厳しい対応をされることに繋がるという悪循環を抱えやすいのです。この悪循環を断つために、まず障害的側面を認識し、教育的配慮をすることが求められます。また、有効な対策の一つとして薬物療法があり、70 %を越える有効性があります。心配な保護者の方は率直に教師と話をし、一緒に信頼できる小児精神科の医師へ相談することが大きな助けになります。



県立こころの医療センター(仮称)の整備について

連載第2回

今回は、新しい病院の役割と機能について紹介します。

新しい病院では、民間病院で対応が困難な児童思春期の心の病や、うつ病の治療等専門性の高い精神科医療を担っていくとともに、庄内・最上地域での精神科救急医療に常時対応できる中核的病院としての役割を、引き続き担うべきであると考えています。

新しい病棟として、ストレス障害の重症者などを対象に高度精神科医療を提供するため、33床のストレッスケアユニットを設置します。この病棟は南棟の1階にあり、前庭には樹木・芝生を植え、庄内の四季・自然を感じる環境を整えるとともに、他の病棟と比較し、個室の割合を高め、患者の皆さんのが快適に療養できるよう配慮しています。

重症の精神科救急患者を集中的に治療するため、医師等を手厚く配置した病棟【いわゆる精神科の救急救命センター】スーパー救急病棟48床を設置します。この病棟は、1階の救急診察処置室からエレベーターを経由し、短距離で移動できる南棟2階にあり、他の病棟と比較し、保護室・観察室など患者の皆さんのが症状にあった病室・設備をきめ細かく整備しています。

◎病棟構成

<現病院>	
病棟の種類	病床数
急性期治療病棟	50床
社会復帰病棟	51床
慢性期病棟(3病棟)	193床
5病棟	294床



<新病院>	
病棟の種類	病床数
スーパー救急病棟	48床
社会復帰病棟	50床
慢性期病棟	50床
子ども・ストレス病棟	48床
医療観察法病棟	17床
5病棟	213床

皆さんこんにちは!! デイケア です

精神科デイケアは、精神科に通院中の方々が、運動や創作活動、料理、手工芸、心理教育（疾病学習、対人関係学習ほか）、レクリエーションなどの活動を通じて、いろいろな人と出会い、同じ悩みを共有したり話し合ったりし、人のつきあいを学び“こころ”“からだ”的リハビリテーションを行う場です。

医師、看護師、作業療法士、精神保健福祉士、栄養士等のスタッフが関わり、あひとりあひとりが目標に向かって、ステップアップできるように援助をしています。

【利用案内】

- ◆月～金曜日（土・日曜日、祝日は休み）
- ◆午前9時～午後3時（給食あり）
- ◆ショートケア（3時間程度、給食なし）での利用も可能です。

※利用にあたっては、
病院スタッフにご相談ください。

